

説教題：「**世界聖餐日に祈る**」

聖書箇所：使徒言行録2章36-47節（216頁）

説教者：秀島行雄牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 53 交読詩編：詩編119編73 - 80節（135頁）

讚美歌：83／419（さあ、共に生きよう）／67（貴きイエスよ）／78（わが主よ、ここに集い）／27

「今週の聖句」〔彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。〕（使徒言行録2：42）

「牧師室の窓」 「同時テロ・スラブ・ガザにて人命の軽き世界を神は望まず」

「聖餐の思いは一つ神のもと恵みに生きつ平和伝えつ」

(1) 皆様おはようございます。本日、10月の最初の日曜日は日本基督教団の年間行事の「世界聖餐日」です。「世界聖餐日」は第2次世界大戦の前、ヨーロッパで戦争が始まろうとする頃に米国の教会で始まり1940年に米国内に広がったと言われています。世界の各地でカトリック教会もプロテスタントの諸教派の教会も行なっていると言われています。実態はどの様であるは分かりませんが、この思いを拡げて行くこと、深めて行くことが重要です。

聖餐とは、礼拝の中でパンとぶどう酒(または、ぶどうジュース)を食べる行為であります。食材も、物質的にも、ありきたりのパンとぶどう酒です。その食物を主イエス・キリストから与えられた食物として礼拝の式典の中で食べるのです。信仰のなせる意識によるのです。

きょうの聖書箇所は、初代教会のクリスチャンたちが、どの様にしてこの世の生活を行ない、どの様な信仰生活を行なっていたのかに思いを馳せて参りましょう。私たちも二千年前のエルサレムの場所にタイムスリップして体験旅行をしてみましょう。

(2) 2章の前半について、確認してみますと、ユダヤ教で最も重要視されているのは過越祭です。過越祭はエジプトでの奴隷生活から解放されたことを記念する行事です。季節としては春の訪れを祝う祭りと言えます。キリスト教では主の復活を祝う復活祭となります。その過越祭の直前に、イエス様は十字架の刑で処刑され、3日後に復活されました。40日間を弟子たちと共に過ごし、天に昇られました。弟子たちは自立して生きて行かねばなりません。精神的には不安定な日々の10日間を過ごしていました。過越祭から50日目目が五旬祭です。五旬祭はモーセがシナイ山にて神から律法を授けられたことを記念する祭であり、麦の収穫を祝う祭りです。

ご参考ですが、日本ではお米の収穫を祝う行事として、宮中にて皇室によるお米、稲穂の刈り入れが行なわれます。新嘗祭(にいなめさい)と言われています。毎年11月23日です。現在では勤労感謝の日として祝日となっています。私の母親の実家は農家でしたので、新嘗祭は大切な行事であったことを私は記憶しています。

話を元に戻しますと、五旬祭の日に弟子たちが集まっていたところに、突然に激しい風が吹き、大きな音がして、弟子たちの上に聖霊が(くだ)降りました。弟子たちはイエス・キリストの御言葉を宣べ伝える人へと変えられた、まさにその瞬間です。この状況を見ていた人々の中には、外国に住んでいるユダヤ人が多くいました。五旬節の祭のためにエルサレムに帰国していたのです。彼らは弟子たちが各地の外国語を話し出したことに対して「驚き、とまどい」ます。ペテロは仲間の弟子たちと共に立ち上がり話し始めました。旧約聖書のヨエル書の言葉を引き出し「若者は幻を見、老人は夢を見る」「主の名を呼び求める者は皆、救われる」と話しました。「若者は幻を見、老人は夢を見る」とは、一言で言えば、希望を持って生きることには他なりません。新しい時代が来たことを宣言しているのです。

(3) 今日の聖書箇所のうち、2章36節～42節ではペテロが人々に話し続けています。神はイエス・キリストを、主とし、メシアとされたことを語っています。37節～39節を見てみましょう。

この37節には「わたしたちはどうしたらよいのですか」と書かれています。2千年前のこの言葉は2千年後に生きている私たちもこの言葉に悩まされています。併し、ここには大きな違いがあります。2千年前の人々は「どうしたらよいのですか」と生きる過程・プロセス・方法を求めているのですが、現代の人々が往々にして求めている「結果の良し悪し」を求めているではありません。

ペトロは段階を踏むようにと答えています。

第1段階が「悔い改めなさい」、

第2段階が「イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい」そして、

第3段階が「賜物として聖霊を受ける」ことです。現代人は段階を踏むことを好まずに、結果だけを追い求めて、結果によって判断する傾向があります。

併し、聖書の考え方は異なります。イエス・キリストは考え方や行動がどの様であるかを大切にしておられます。徴税人ザカイもマルタとマリアも放蕩息子の話もそうです。福音書に出てくるイエス・キリストの譬え話には深い愛情が注がれています。只今の39節にもそのことが書かれています。〔(2:39)この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。〕一言で言えば「約束が与えられている」のです。「約束が与えられている」とは、信頼関係があることに他なりません。皆様の周りで約束が出来る人と約束が出来ない人がいませんか。子供たちが小学校で学ぶことの基本は約束が出来る人になることです。残念ながら、現代の日本の社会では、約束とは何かを理解していない人々が多くいます。先週、町田で起きた買い物帰りの76歳の女性殺害事件も特殊詐欺事件も夫々の人生に与えられた「約束」が何であるのかを理解していないのです。人生にとって最も悲しいことは「神の約束」を理解しないままに人生を終えることでもあります。

(4)40節には〔(2:40)ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。〕と書かれています。キリストの教会は、この世の中に「神の約束」について伝えて行かねばなりません。見掛け倒しのキリスト教や教会であっては、キリストから託された責務・任務・使命を果たすことは出来ないと思います。

42節には〔(2:42)彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。〕と記されています。「熱心」とは、一時的な活動ではありません。倦(う)むことなく繰り返すことです。繰り返すことで、人間が鍛えられ、人生を生きる力が養われてくるのです。ここに書かれている「パンを裂くこと」とは共に食事をすることです。初代教会の礼拝の中で共同の食事が行なわれていたことを示しています。この共同の食事のことは、ギリシア語でαγαπη(アガペー)と言います。日本語では愛餐(あいさん)と翻訳されています。

私は学生時代に下宿生活で一人で食事をしていましたが、そこを引き払って、別の下宿に引っ越しました。そこには大人のお子さんが3人いて、加えて下宿生が3人です。下宿のおばさんは家の中での洋裁仕事と下宿代金とで生活をしていました。洋裁の技術は高く、一日中家の中で作業をしていました。腕に技術を持つことの大切さをわたしは学びました。食事作りは上手なのですが、食器には前のご飯がこびり付いており、竹製のお箸は先端がどれも黒く焦げていました。それでも、食事時には、3人のお子さんと3人の下宿学生とで賑やかに食事をするのは楽しかったです。食事の楽しさとは、豪華な食事でも美しい食器でもありません。毎日の些細な出来事を語り合い、耳を傾けて食べれば豊かな食事の時間となることを私は学生時代に学びました。

今日の聖書の中で語られている、初代教会の礼拝の中での食事は食べ物としては貧弱ではあっても、精神的に満たされた食事のひとつでだったと私は推測しています。

(5) 続いて、43節～47節を見てみましょう。〔(2:43)すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業とするしが行われていたのである。〕この43節に「恐れが生じた」と翻訳されていますが、「恐ろしくなった」と言うよりは「敬(うやま)う、大切だと思ふ」と言う気持ちが生まれてきたのです。文語訳聖書には「敬畏(おそれ)を生じ／かたじけない、ありがたい、うやまうと言う意味」と翻訳されています。口語訳聖書では、ひらがなで「おそれの念が生じ」と翻訳されています。新共同訳聖書では、42節と43節とが切り離されているので理解しづらいですが、42節と43節を続けて読むと理解が深まります。祈ること、パンを食べることが、礼拝の中で一体となり神を敬うことの心からの感動が養われていることが理解できます。従って、43節の後半に書かれている「使徒たちによって多くの不思議な業とするしが行われていたのである」ことを理解することが出来ます。「不思議な業とするし」とは当時のユダヤ教の常識では考えられない助け合いの共同生活が始まったことが記されています。

44節45節には〔(2:44)信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、(2:45)財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。〕と書かれています。実際にはどの様であったのかは知る由もありませんが、注目すべきは44節です。〔(2:44)信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし〕と書かれていることがヒント、手掛かりになります。

礼拝を共にすること、食べ物を共にすることによって、俗な言い方をすれば、同じ釜の飯を食べている仲間意識が強くなってゆき、財産を提供することに意義を見出したのであろうと推測されます。財産と言うのは所有権を示す具体的な目に見える物体または権利ではありますが、当時の社会では、その人だけが使うことが出来る占有権でもありました。ここに書かれている初代教会の礼拝には、個人的な所有権や占有権を放棄して、この集団の中で消費する公共財産とすることを決意させる喜びがあったものと推測されます。

そのことが46節47節に書かれています。〔(2:46)そして、毎日ひたすら心をつにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、(2:47)神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。〕ここには、人間の心を震わせる状況が書かれています。言葉を拾い読みしただけでも「ひたすら心をつにして」「家ごとに集まってパンを裂き」「喜びと真心をもって一緒に食事をし」「神を賛美していた」「主は救われる人々を…一つにされた」のです。皆様はどの様に読み解かれるでしょうか。ここには食料問題から解放された集団が描かれています。

併し、このことを現実的ではない空想・理想と断じてはなりません。私たちが生きている現実の世界には多くの問題があり、矛盾や不合理があり、平和が実現してはいません。現代の教会がなすべきことは、これらの矛盾や問題を解決し乗り越えることを神が望んでおられること、人々に伝えることにあります。平和の実現のために神の御言葉を語り続けるのです。

本日は「世界聖餐日」です。聖餐を共にすることによって、本日の聖書箇所のように、希望が生まれ、平和が実現できるのです。小さなパンのかけらが、僅かなぶどうジュースを共にいただくことが平和への一歩となります。後程に受け取る聖餐を、心を込めていただきましょう。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちは秋10月を迎えました。秋は収穫の時です。

私たちが、人々が日々の食べ物を得て生活できますように祈ります。

神が創造されましたこの地球上に生きる一人一人に平安・平和・希望が与えられますように。

食べ物が乏しい人々に、災害や戦争の只中にある一人一人に慰めがありますように、お守りください。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人一人、主なる神の御恵みと平安がありますように。イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン